



会議録を読むと、こんな話が！

戦後、26年振りに  
できました！

## ～“文化の殿堂” 那覇市民会館～

1970年11月、那覇市公会堂が10・10空襲で破壊されて以来26年ぶりに市民会館が落成しました。基本設計は競技設計で選定され、当選した現代建築設計事務所案は、審査委員の法政大学教授大江宏氏より「本土では全く着想しえない独創的なものであり、とくに大ホールと中ホールの間を貫いたプロムナードの使い方や日照調節のための大ひさは沖縄の風土的特性を活かした郷土色あふれる近代的な設計」と高く評価されました。大ホールに備え付けられた第1緞帳は、円覚寺龍淵殿の板戸透彫の鳳凰を原図としたものです。京都の備前屋で制作され、特約店であった琉球文教図書株式会社から3万ドルで購入していますが、その費用は個人や団体からの寄付で賄われました。朝日を表した第2緞帳も、制作費の3万ドルを松下電器産業株式会社から贈られています。

市民会館は「文化の殿堂」として県内外からの関心も高く、建設時に募った寄付は10万6,952ドル12セントにもなりました。落成記念式典で当時の平良良松市長は、「本土復帰に向って歴史的な大転換をとげようとしている沖縄県民の精神復興の象徴」とであると式辞を述べています。

※当時は1ドル＝360円でした。



第1緞帳（鳳凰）



第2緞帳（朝日）

復帰の日、雨降りしきる中  
議会では・・・

## ～本土復帰日の深夜議会～

沖縄が本土復帰を迎える1972年5月15日、第140回臨時会(12日目)が午前1時51分より開催されました。最初に議題にあがったのは「祖国復帰宣言」。これは全会一致で可決され、この日の全日程が終了したのは午前5時のことでした。

4月から始まり、復帰の日をまたいでの開催となったこの臨時会では、100件近い案件が話し合われ、撤回された1件以外はすべて原案可決、または同意という結果でした。

ちなみに、議会の会議録は5月13日までは西暦のみ使用していましたが、5月15日以降は和暦が使われるようになりました。



第140回臨時会の案件一覧

(那覇市歴史博物館提供)